

# さっぽろ地域コミュニティ検討委員会 第1回会議

## 会 議 録

日 時：平成27年11月5日（木）15時開会  
場 所：札幌市役本庁舎 18階 第四常任委員会会議室

## 1 委嘱式

### (1) 委員の委嘱

○事務局（福澤市民自治推進課長）

それでは、定刻となりました。ただいまからさっぽろ地域コミュニティ検討委員会第一回会議を開催いたします。

私は、市民まちづくり局市民自治推進室市民自治推進課長の福澤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

会議の開催に先立ちまして、本会議の委員の委嘱を行います。委嘱状につきましては、お一人ずつお渡しするべきものでございますが、時間も限られておりますことからすでに委嘱状を各委員のお手元に置かせていただいております。これよりお名前をお一人ずつ呼ばせていただきます。これをもって委嘱状の交付とさせていただきます。

それでは、五十音順にてご紹介させていただきます。

飯田俊郎委員、五十嵐秀子委員、石村実委員、喜多洋子委員、鈴木克典委員、町田信一委員、山内睦夫委員、龍滝知佳委員

本検討委員会は以上の8名でご意見をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

### (2) 小角市民自治推進室長あいさつ

○事務局（福澤市民自治推進課長）

続きまして、事務局を代表いたしまして、小角市民自治推進室長より委嘱にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

○小角市民自治推進室長

市民自治推進室長小角でございます。委員のみなさまにおかれましては、大変ご多忙の身ながらこの度さっぽろ地域コミュニティ検討委員会委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。本来でございましたら、市民まちづくり局長の池田よりご挨拶申し上げるところ、本日他の公務が入っております関係から私から一言、立ち上げに際しましての挨拶をさせていただきますと思います。

みなさまもご存知の通り、我が国を取り巻く状況ということでいいますと、2年前くらいですか、地方創生会議で消滅可能性都市ということで、それを契機として、にわか人口減少問題ということが非常にクローズアップされてきております。

札幌におきましても、かねてより少子高齢化は少しずつありましたが、ちょうど今年平成27年頃をピークにそろそろ全体として人口減少局面を迎えるような、今までにない大きな転換期を迎えているというような状況でございます。

この高齢化、あるいは人口減少社会の到来と申しますのは、市全体におきましても経済規模の縮小ですとか、あるいは持続発展的なまちづくりの維持だとかいう所で政策上の大きな課題が生じておりますけれども、地域に目を向けましても、例えば高齢者の単身高齢世帯の増加に伴う社会的孤立化の問題ですとか、あるいは防災・防犯など安心・安全な暮らしを支える上でのそういう地域の機能の維持という所にいろいろな課題がそろそろ顕在化しつつあるというような所で

ざいます。

こういった課題につきましては、もちろん行政として対応すべくいろいろと施策等を検討しているところではございますが、なかなか行政だけで全てを解決していくということは難しくなってきたておまして、今まで以上にやはり地域の互助・共助といった取組は非常に大事、そういう取組の担い手となります地域コミュニティについても、今までにも増して重要な位置を占めてくる、そのように考えている所でございます。

一方で、その地域コミュニティにおきましても、なかなか近年では地域住民同士の繋がり希薄化ですとか、あるいは担い手の不足だとか、こういった課題を内包しているというような所がありまして、今一度この地域コミュニティというものをどのように維持、そして活性化していくかということについて真剣に考えなければいけない状況が来ていると、このように市としては認識している所でございます。

そこで今回、この地域コミュニティ検討委員会につきましては、昨今の社会環境の変化を踏まえまして地域コミュニティの重要性、役割というものを今一度再認識、再整理いたしますと共に、このコミュニティの活性化に向けてそれぞれ行政・地域が担うべき役割ですとか、あるいはそれを支援するための仕組みづくりについてみなさまからのご意見をいただきながら、私共の施策に反映して参りたいと、そのような目的の基に設立させていただきました。

また、地域コミュニティの中核を担います町内会におきましても、先ほども申しましたように役員の高齢化ですとか、加入率の低下といったような課題を抱えております。

今年の4月の市長選で秋元市長に変わりました。選挙時の選挙公約の中でも、やはりこういった地域コミュニティというものの大切さ、重要性という認識の下に、いろいろな地域のまちづくり活動に対する支援の充実ですとか、更にはその中核を担います町内会につきましては、特に加入率について大きな危機感を持っているということで、加入促進条例の制定に向けた検討といったことが公約に掲げられております。

すでに町内会加入率の問題につきましては、他都市でも同様の課題を抱えておまして、川崎、横浜、京都をはじめ、いくつかの都市で町内会の加入を進める条例ですとか、あるいは地域活動活性化条例といったような条例を制定している所でございます。札幌市におきましても実はもうすでに自治基本条例、更にはまちづくり活動促進条例というものは制定しておりますけれども、更にそういう町内会の活性化、あるいは加入促進に向けた個別の条例が必要なのか、あるいは既存の条例の中に改正が必要であるか、既存の条例を充実させた中で支援を進めていけばいいのか、そういった問題につきましてもこの委員会のこの後の議論の中でご意見をいただければと、そのように考えている所でございます。

今年度中に4回、年度が空けて2回ほど、計6回ほどの会議を予定しております。みなさまにおかれましては、より良い暮らしやすい地域づくりに向けまして、それぞれの委員の立場から忌憚のないご意見をいただければということをお願い申し上げまして、私からこの設立にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。今後ともよろしく願いいたします。

○事務局（福澤市民自治推進課長）

以上をもちまして委嘱式を終了させていただきます。

## 2 議事

### (1) 委員長の選出

#### ○事務局（福澤市民自治推進課長）

それでは引き続きさっぽろ地域コミュニティ検討委員会第一回会議を開催させていただきます。まずはじめに委員のみなさまから自己紹介をいただきたいと存じます。飯田委員から順にお願いいたします。

#### ○飯田俊郎委員

札幌国際大学の教員で飯田と申します。札幌育ちで小さい時から札幌のコミュニティを見てきたつもりなんですけれども、職業として町内会等に関わって随分思いを新たにしています。私は札幌の街中で育ったのですけれども、私の大学があるような郊外の地域に行くとまた様相が非常に違って、若い時からマイホームを買ってずっと頑張ってきた人達がそのまま今も町内会の役員を務めていらして、後の世代を育ててきていなかったという反省をされているところです。そういった所に学生を連れて行って地域のお手伝いなどさせていただきながら、そういう課題解決に取り組んでいるところです。この委員会でもっと抜本的な所から検討できればそういう活動も実を結ぶのではないかと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○五十嵐秀子委員

五十嵐秀子と申します。今、幌北連合町内会の副会長と女性部長をやらせていただいております。私は今の幌北地区に住みまして 50 年くらいになります。そして町内会活動に参加させていただいているのが 25 年くらいかなと考えております。いま町内会の抱える課題、お話がありましたように高齢化とか参加や加入の人数の不足などで本当に悩んでいる一人かなとも思っていますので、みなさまのご意見を活かして使っていきながらますます町内会が活発になるようにこれから勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### ○石村実委員

市民委員の石村でございます。厚別区のもみじ台に住んでおります。もみじ台といえば郊外にできた大型の団地でございます。できた頃、最盛期には 27,000 人ほどの人口がおりましたが、今は 17,000 人ほどに下がっております。大変高齢化率が高く、何か行事するにしてもなかなか若い世代の参加がないということで悩んでおります。今回この地域コミュニティでいろいろ勉強させていただいて、そして地域にいかんそれを活かしていくかというのをいろいろ検討していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○喜多洋子委員

喜多洋子です。いま麻生の中で町内会、商店街を巻き込んで藤女子大学と一緒に連携しながら麻生キッチン「リアン」というお店を作っています。商店街活性化事業でやっているのですが、その前というか今もそうなのですが、20 年くらい麻生を拠点として子育て支援をやってきました。子育てしやすい社会は本当に地域を豊かにすることだなというふうに思っていて、いろいろな世代の人達と交流をすることで、お母さん達がいろいろな価値観を受け入れて、また子ども達にもいい影響が出るんじゃないかなと思ってまちづくりに励んでいるところです。私の経験とか、町内会ということで町内会の方とも繋がっていますが、みなさんのいろいろな意見を聞きながら、札幌市の町内会のあり方というのかな、これからのコミュニティのあり方をみなさんと考えていきたいなと思っています。よろしくお願いいたします。

#### ○鈴木克典委員

北星学園大学の鈴木と申します。私の元々の専門は都市計画でして、もう少し砕けた言い方をしますと「まちづくり」となります。そういった専門の中でいろいろと勉強してきたということもございますが、それ以前に、いま大学におりますけれど、地域の方々と一緒に地域を元気にしようということで学生も含めましていろいろなプロジェクトですとか、コラボをさせていただいています。そういった中でやはり地域が元気にならないと街も活性化しないものですから、その辺の必要性もやはり十分に感じております。そういった中で、これらの経験を活かしながら少しでも札幌のまちづくりにお役に立てればなというふうに思っておりますので、みなさんどうぞよろしく願いいたします。

#### ○町田信一委員

町田信一と申します。私、民間の企業として 40 年間やって参りました。工場の現場の仕事を含めまして、それから後は商品開発、その後は工程管理に商品開発、生産技術といろいろな物作りに携わって参りました。そして最後の 20 年でございますが、40 代くらいから営業に行かされて、営業でそれぞれ外資系の会社とかいろいろな物売りに携わった中で辛苦をなめて、それも 1 つの楽しみとして勤務生活を終わったという履歴でございます。

私も会社を定年になりまして、マンションに入りました。マンションに入りまして、入ったと同時にですね「お前役員やれ」ということになり、そして次には、新しい役員さんの中で 3 人、その中から理事長を決めろという話になりました。当時うちのマンションはですね、役員のなり手もなかなか難しい、理事長のなり手もなかなかいないということで「アミダで決めろ」という話になりまして、アミダじゃいくらなんでもということで「わかりました私が理事長をやりますよ」ということで、まったくド素人でマンションの事も何もわからなかった、そんな人間がこのきっかけで理事長として数えてみれば 10 年経ったわけでございます。そうしまして、いろいろその経験を振り返ってみますと、マンションというのはみんなそれぞれ多種多様な考え方の人が同じ屋根の下に住んで交流を形成しながら構成していく社会、それがマンションだというふうに思っております。マンションの位置付けとしては本当にごく当たり前のルールやマナーですか、それからちょっと距離を置いた家族のようなコミュニティが大切なのではないかなと考えております。そのようなことでマンションのコミュニティということでやっております。私、去年に地元の町内会の前会長から「お前何とかやってくれ。俺も年だ」と言われまして、私も年には弱いものですから「わかりました」ということで会長になり、1 年半くらい経ちました。改めて町内会というのを見ると、いろいろな問題もございます。ただ私はできるだけ課題を作らない、物事はスピーディに対処するというのを心掛けていながら、それから後は地域の町内会のコミュニティですね。これを今までの経験を踏まえながら何とか構築していきたいと考えております。このような機会を与您いただきましたので、これを地元の私の町内会にいろいろと反映させていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

#### ○山内睦夫委員

桑園地区連合町内会から参りました山内でございます。今後ともよろしく願いを申し上げます。桑園地区はみなさんもある程度ご存じかと思っておりますけれど、中央区では人口の伸び率が一番でないかなと思っております。10 年位前から 1.5 倍になって、今は 27,500 人～27,600 人という状態でございます。先ほど石村委員から言われました 27,000 人から 17,000 人で、うちの方では

17,000 人から 27,500 人と逆な状態ということですね。マンションがあそこまでできましたが、今まで休遊地が結構ありました。その休遊地はまるっきり野原があったわけではないですけど、要するに社宅ですね、それと倉庫街が多々あったのがなくなりまして、壊されてそこにマンションが建ったということが現状でございます。桑園地区としてはそういった中で年々300、400 と増えておりますので、やはり桑園小学校も教室が足りなくて 6 クラスということでございます。6 クラスは全道で一番だということなのですが、それが喜んで良い事なのかどうなのかちょっと分かりかねるんですね。要するにクラスがないんです。建てたばかりなんです。建って 3 年ですけども。今の所はギリギリで間に合っているんです。いずれにしても桑園地区はそういう状況の中で新しいニューファミリーの方も来られて、またリタイアされたご年配の方も来られるということいろいろな形の中で生活されているという状況で、その中でわれわれ桑園町内会としても安心安全のために日夜努力しているつもりでございます。それと地域コミュニティとしては、いろいろなイベントを持ちながらお互いに話し合っ町内会に入っいただくように日夜努力はしているつもりなのですが、なかなかそこら辺が上手くいかないということで、私はこの委員会におきましてみなさまの良い知恵、その他ご意見があれば本当にお聞きしたいなという中でご参加させていただきました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

#### ○龍滝知佳委員

はじめまして、マザーズスキルサポートという子育て支援団体の代表をさせていただいております、龍滝知佳と申します。私はいま現在小学校 2 年生と 4 歳の子どもが 2 人おりまして、これまでは一般子育てママ向けにさまざまなイベントですとか子育て講座企画主催を主としていたのですが、3 年前に実家があります東区のくさぶえ地区の方に家庭の事情で戻りまして、まず自分の子どもが地域で安心・安全に暮らす事を一番と考えて町内会の総会に潜り込みまして、マイクを奪いまして「いろいろやらせていただきたいのでよろしくお願ひいたします」と町内会の役員のみなさんが、ポカーンと口を開けている中、延々と喋らせていただきました。そして、地区の会館で子育てママ向けのイベントや、町内会の子ども会のイベントなどいろいろやっておりますら、町内会の青少年部の部長さんがお引越しされまして、そうした経緯で私が青少年部部長になりました。これまではいろいろなイベントなどに関わり企画主催して参りました。最近、町内会長が交替して若返りがはかられたのですけれど、他の町内会はやはり若い家庭の加入率が非常に低いと思うのですが、当町内会は私のそういったいろいろなアイデアが生きたのか、今年に入りまして 6 組新規の会員様が加入しております。元々は 50 年の歴史のある古い町内会ですので、加入率は 80%を超えてはいますが、ほぼ全ての家庭が戸建の一軒家で、みなさん町内会歴 30 年、40 年と長くいらっしゃる方ばかりですので、新規に入ってきた方、子ども連れの方すごく少ないのですけれどそういった所の取り残しのないように、みんなが何か、ここの町内会は面白そうだから入ろう、というような感じで頑張っております。6 組というのは結構大きな数字ではあると思うのですが、そういった「町内会って何か楽しそうだな」、「入ってみたいな」という雰囲気になっ町内会がなっければ地域の活性化というのは図っけるのではないかなと思ひますので、そういった所をこれから地域コミュニティ検討委員としてお役に立てていければと思っております。大変若輩者ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

#### ○事務局（福澤市民自治推進課長）

続きまして委員長の選出に移りたいと存じます。この会議には、さっぼろ地域コミュニティ検

討委員会設置要綱の規定に基づき、委員長を置くこととし、委員の互選により選出することとされており、委員長の選出について、ご意見がございましたらお願いいたします。

○山内委員

事務局一任でよいのでは。

○事務局（福澤市民自治推進課長）

事務局一任の声がございましたので、事務局案を提示させていただきたいと存じます。鈴木委員に委員長をお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

（一同 異議なし）

○事務局（福澤市民自治推進課長）

ありがとうございました。それでは、ここからは委員長に議事をお願いすることといたしますが、議事に入る前に委員長より一言いただきますと共に、「副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故がある時はその職務を代理する」という規定が要綱にございますので、副委員長の指名をお願いいたします。

○鈴木克典委員長

ただ今ご指名に預かりました北星学園大学の鈴木と申します。委員長にご指名をいただきまして、身に余る光栄です。

先ほども申し上げましたように、私は大学におりまして、大学を通じていろいろな地域の町内会の方にもお世話になっておりますし、またいろいろな活動もそれなりにしてきたと思います。

また、私ごとではございますが、昨年私のいる町内会で持ち回りということだったのですけれども、ブロック長兼班長を仰せつかりまして一年間非常に大変な思いをしました。働きながらの業務でしたし、いい加減にもできませんでした。広報誌の配達もやりましたが、私の町内会は非常に件数も多いものですからとても大変な思いをしました。

そういった中でいろいろな経験をさせていただきました。経験させていただいて良かったなと思っておりますけれども、そういった経験を少しでも生かしながら、またみなさまもご経験豊富な方ばかりですので、みなさまのお力を借りながら、私の経験も踏まえて、今回の委員の名前でもあります「コミュニティ」の活性化につきましても、札幌市にご提言できればいいかなと思っておりますので、みなさんよろしくお願いいたします。

それでは、副委員長なのですがすけれども、私以上に学生も含めまして地域連携にいろいろとやられておりますし、非常にそういった中、町内会関係で非常にネットワークもおありで、且つコミュニティや町内会の問題に非常にご造詣の深い飯田先生に是非お願いしたいと思うのですが、みなさんいかがでしょうか。

（一同 賛成）

○飯田俊郎副委員長

委員長を支えて参ります。

○鈴木克典委員長

それでは引き続き議事を仰せつかりましたので、私の方で進めて参ります。みなさんよろしくお願いいたします。

## (2) さっぽろ地域コミュニティ検討委員会の趣旨・想定スケジュール

### ○鈴木克典委員長

それでは、お手元に次第がございますけれど、その次第に沿って進めて参ります。

まず一番目の委員長選出が終了しましたので、二番目のさっぽろ地域コミュニティ検討委員会の趣旨・想定スケジュールということで、事務局よりご説明をお願いいたします。

### ○事務局（高橋地域支援担当係長）

事務局の高橋と申します。本日はよろしくお願ひいたします。説明をさせていただきます。

それでは、一番上に「さっぽろ地域コミュニティ検討委員会の概要について」と書かれた資料がお手元にあるかと思うのですが、ありますでしょうか。こちらに沿ってコミュニティ検討委員会の背景、そして検討委員会の目的、スケジュールについてご説明させていただきます。

まず、検討委員会の背景についてご説明させていただきます。

札幌市では、少子高齢・人口減少社会の到来に伴い、高齢者等の社会的孤立化や防犯・防災など安心安全な暮らしの確保等の課題が顕在化しつつあり、加えてその進行度に由来する地域間格差も顕著になりつつあります。このような状況を背景に、その解決に向けて地域での支え合いや繋がりなどを担う地域コミュニティの重要性は益々高まってきておりますが、一方で地域コミュニティ自体も、地域住民同士の繋がり希薄化や担い手不足などの課題を抱えております。このため、社会環境の変化を踏まえまして、地域コミュニティの重要性や役割を再認識すると共に、持続可能なまちづくりを担う地域コミュニティの活性化が求められております。これがこの検討委員会の背景になっております。

そして、目的についてですけれども、この背景を踏まえまして、検討委員会では地域コミュニティの活性化を目的に、地域におけるコミュニティの目指すべき姿と地域コミュニティ活動の活性化に向けて、地域、行政、その他関係主体が果たすべき役割や支援の仕組みについて検討を行うこと、これを目的としています。

なお、この検討委員会の位置付けですが、要綱により設置される懇話会というものに位置付けられます。本市で目指すべき施策とか取組について委員から意見を聴取するために設置するものでございます。各委員から意見交換を通じたコミュニティ活性化に向けた検討結果を報告書としてまとめていただきまして、今後の施策の反映に努めて参りたいと考えております。

続きまして、スケジュールになります。

先ほど室長の小角より話がありましたが、平成 27 年度、来年の 3 月までに 4 回の会議を予定しております。本日 11 月 5 日が第一回目の検討委員会会議となります。

そして 2 回目については、改めて日程調整をさせていただきますけれども、12 月を予定しております。この 2 回目では、地域コミュニティに求められる町内会のあり方だとかそういったものを検討できたらなというように思っております。

そして第 3 回目は 1 月の下旬。こちらは先ほど目的でもお話ししましたが、市民、町内会、事業者、そして行政の役割の検討等を行えればというふうに考えております。

そして第 4 回目では、市民意見からみた地域コミュニティのあり方や役割の整理を行い、大きな方向性の議論をしていただければと考えております。

また、12 月中旬なのですけれども、市民ワークショップというのがございます。こちらやはり市民に大変大きく関わることでありますから、市民の意見を聴取したいと思っております。具体的には、約 2000 人の方に無作為抽出でワークショップに出ただけでありませんかという文書を送りまして、



参加希望者の中から 30 人くらいを選出できたらと思っております。

現在の予定では 12 月 19 日の土曜日の 13 時からを予定しております。場所は、かでの 2・7 になっております。もし委員のみなさまもご都合つけばご出席、ご見学いただければと考えております。

そして 2 月中旬には、やはり町内会に関することですので、町内会役員の意見交換会を実施したいと思っております、30 名ほどのご参加を予定しております。具体的なことについては、今後検討していきたいと思っております。

そして年度明けに第 5 回、第 6 回の検討委員会会議というふうで開催していけたらと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で概要の説明終わらせていただきます。

#### ○鈴木克典委員長

ありがとうございます。ただいまスケジュールについてご説明いただきましたが、全体で 2 年度に渡っていますけど、概ね 6 回を目途に今回の委員会でもとめを行っていく事になります。

今年度につきましては、4 回予定されていますが、最終的に、そのスケジュールにもごましますように、来年度の第 5 回、第 6 回につきましては、報告書の方向性ですとかまとめについて議論ですとか、確認の作業で費やされることになると思います。概ね今年度の 3 月下旬まで 4 回に渡って大きな方向性ですとか、報告書の作成に向けたポイントですとか、そういったものを整理することになると思います。

スケジュールに関しまして、こういった予定で進めることにつきましてはみなさまよろしいでしょうか。ありがとうございます。この事につきまして、何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。概ねひと月に一度くらいの開催ということになります。

#### ○町田信一委員

このワークショップについて、はじめての経験なので、もうちょっと詳しくお話ししていただきたい。どのような意見を聴取して、委員として参加した場合、委員もそれに対して話しするかあるのですか。

#### ○事務局（高橋地域支援担当係長）

現在の所、30 人くらい集まっていたいただいて、具体的には 6~7 人くらいのグループを作っていくつかに分かれて、そのテーブルか所につき一人のファシリテーターという進行役が付きまして、そこで意見をうかがう形になります。そこには委員のみなさまは入らないで見学いただくようなイメージになっております。

そこで出たいろいろな意見については、まとめさせていただいて、こちらの検討委員会にフィードバックしていきたいというふうに考えております。

#### ○小角市民自治推進室長

元々ワークショップ自体は一つの答えを求めるものではないんですね。特定のテーマに対しまして、より年齢階層ですとか立場ですとか異なる方から幅広く意見をいただいて、その上で踏まえるべき視点ですとか論点をいくつかグルーピングをして、こういうことが大事だよ、というようにところまでを共通認識としてまとめるということになります。

なぜそのようなことをやるのかというと、もちろん地域コミュニティの活性化に向けた議論というのはこの検討委員会で進めていくことなのですが、やはりより多くの市民の方がどんなことを地域コミュニティに対して感じているのか、どんなことを必要と考えているのかという、検討を進めていただく上での参考情報といいますか、そういうものを収集して、当然ながらワークシ

ワークショップの中でどういう議論があって、どういう話になったということにつきましては、第3回の検討委員会の場でご報告をさせていただいて、それを元に更にこの検討委員会の中でどのような取組が必要かなというご議論を進めていただければなど、そのように考えております。

○鈴木克典委員長

ありがとうございます。その他、何かございますでしょうか。

ちょっと私からも一つよろしいですか。その際に、年齢階層ですとか地域ですとか、その辺は十分考慮されると思うのですが、町内会に加入している・していない、その辺のサンプリングは考慮されるのでしょうか。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

この市民ワークショップの中ということでしょうか。

○鈴木克典委員長

はい、ワークショップのサンプリングの中です。比較的やはり町内会に加入されている方のほうが地域への意識が高いと思います。この中でランダムサンプリングですので、その中で出たという方は必然的に町内会に入っている方が多いと思うのですが。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

そうですね、確かに反動的には町内会に入っている方のほうが多いかと思えます。町内会に入っている方が多いと思うのですが、一方でそのあと、町内会の方だけのワークショップを控えておりますので、その辺あくまでも町内会に偏らない程度というイメージでは考えていますけれど、その反応をみて考えようかなと考えております。

○鈴木克典委員長

割合ですとかその辺は気にされなくていいのですが、基本的にやはりなぜ町内会に入っていないのかというのがありますので、その辺を若干でも考慮していただければと思っています。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

はい、わかりました。

○鈴木克典委員長

その他何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

### (3) 地域コミュニティの概要・課題等について（報告）

○鈴木克典委員長

それでは今回の第1回目ですけれども、初回ということもありますので、細かい議論まではできないと思いますが、次に地域コミュニティの概要と課題についてということで説明をよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

それでは、お手元のA3版のカラーの資料に基づいて、私の方から、30分程度お時間いただきまして、札幌市の人口の現状や地域コミュニティの状況、町内会の現状と課題等の説明をさせていただきますと思います。ページ数は右上に出しております。

まず1ページ目は、札幌市の人口の現状の資料になります。グラフを見ていただきたいのですが、札幌市の人口と高齢化率を記載しております。

人口の方に着目いたしますと、推計人口では2015年は1,937,000人となっております、結果については国勢調査をちょうどやっておりますので、まだ結果は出ていませんけれども、今年あたりをピークに減少すると見込まれています。2035年の平成47年には1,800,000人程度にまで減少

する見込みとなっております。

また、高齢化率の方に目を落としていただきますと、例えば 2010 年ですと老年人口の割合 20.2%のものが、2035 年を見ますと 35.1%という形で、3 人に 1 人が高齢者になることが見込まれております。

その高齢者なのですけれども、特に単身高齢者の推移の方を見ても、右の表の所に目を移しますと、例えば 2015 年 10.4%いわゆる 10 人に 1 人が単身の高齢者なんですけれども、それが 2020 年の 5 年後には 12.1%、8 世帯に 1 世帯ですね。そして、2035 年には 15.8%という形で 6 人に 1 人の割合が高齢単身世帯という形になっております。

そして人口が平成 27 年度をピークに減っていくというお話をしましたが、(2)下の段の区別の人口の状況という所を見ますと、区によって人口の減少のスピードが全然異なっております。

各区の人口推移という表を見ても、もうすでに厚別区、南区の所には青い矢印で下方に出ていますけれども、南区では平成 10 年頃から、厚別区では平成 18 年ぐらいから減少傾向に転じているという状況です。

そしてこちら 2015 年と 2020 年の間を見ても、青い矢印がたくさん出ています。ちょうどこの時期には、東区、白石区、豊平区、西区、手稲区で減少に転じる見込みとなっております。その横には北区、清田区は平成 32 年頃に減少に転じる見込みというふうになっております。

これを見ても、桑園地区の方もいらっしゃいますけれども、中央区のみが人口の増加が進んでいくという形になっております。各区によって人口の動向が非常に異なって参ります。

右の表に目を移していただきますと地区ごとに比較したものになっております。国勢調査が 5 年に一回となっていますので、平成 22 年を基準としての人口増減で、この緑色の部分が何を意味するのかというと、ちょっと右の方に目を向けていただいて、人口の増減で 0~5 ポイント減少というふうになっています。

また平成 22 年~27 年の人口の増減割合を見ても、この緑色の部分というのは、手稲区の一部、西区の一部、そして南区、そして厚別区の一部、東区も入っておりますけれども、それが平成 22 年~37 年の隣の真ん中の表を見ても、どんどん緑色の部分が拡大していくような形になっております。いわゆる人口の減少が進んでいく形になっております。

そしてさらに、平成 47 年までのものを見ますと紫色というのがどんどん出てきておまして、どんどん人口が減少してくというのが目に見える形にしております。

一方で赤い部分。先ほども申し上げましたけれども中央区の部分ですね。赤色になっておりますので、こちらはどんどん人口が増加していきますよ、という形になっております。

こちらが人口の増減に着目したものになっております。

一方で高齢化についてどうなっているのかというのが次のページの「(3)将来推計人口と高齢化・人口密度」となります。ちょっと色合いが見づらくて大変申し訳ないのですけれども、この(3)の右の方に老年人口比率を縦軸に、人口密度を横軸にとり、それぞれ色づけされております。この中で老年人口比率と人口密度、両方見るとちょっと混乱してしまうものですから、まず老年人口比率の部分を見ていきたいと思っております。

2010 年の表を見ていきますと、緑色の部分があるのですけれども、この緑色の部分というのが老年人口比率、高齢化率が 30~40%の所を指しております。

2010 年で見ますと、具体的な地区名としては、左下の緑色の部分は定山溪の所ですね。そして真ん中へんに緑色の部分、厚別のもみじ台の青葉地区になっております。ここが 2010 年ですと 30%の高齢化率になっているというのが示されております。

そしてひとつ飛ばして2020年をちょっと見てみますと、その緑色が赤になってきております。赤は老年人口比率40~50%を指しています。2020年の表を見てみますと、南区の所が赤っぽくなっているのが増えてきております。そして後、もみじ台、青葉の所も赤になってきております。

この赤い割合が2025年、2030年、2035年というふうにいけますと、どんどん増えていく形になっております。具体的に言いますと2025年には過半数となると推計されています。

これは、まちづくりセンターの地区になっておりますので、全87の地区なのですが、その過半数となる47地区に30%以上の地区が生じてきます。そして、2030年には約3分の2となる56地区が30%以上となります。そして、一番右2035年には都心部を除くほぼ全域が30%以上の地区になるというのが目に見えてわかる資料になっております。

この今お話しいたしました人口減少、高齢化に伴う課題といたしまして、いくつか挙げさせていただきます。

人口減少、高齢化に伴い地域において顕在化が想定される課題という形で、こちら地域コミュニティの希薄化、高齢者の増加、そして先ほど1ページ目で挙げたように単身高齢世帯の増加、そして安心安全な暮らしの確保、地域防災力の維持・向上、生活利便機能の低下、そして地域活動の担い手の不足、こういった課題が想定されるという形でまとめさせていただきました。

これらをまとめてみますと、地域課題の多様性や複雑化が見えてきますというお話が真ん中のものです。地域課題の多様性ということで行政のみでは対応解決が困難な課題が現実にも生まれてきております。これは公助だけでなく、自助・互助・共助との連携の必要性があるかなと考えております。

そして地域課題の複雑化に伴い、より専門的な知識やスキルが必要な課題が増加しております。こちらに対しても地域の人材だとか、活動主体の保有するさまざまな知識、スキルの効果的な活用が必要なのではないかなと考えております。

これらから一番右にまとめていますけれど、地域の互助・共助の活動をするさまざまな役割・機能を担う地域コミュニティの活性化が必要なのではないか。そして、町内会をはじめとしたさまざまな知識・スキルを有する地域の多様な人材、活動主体のネットワークが必要なのではないかとこちらの方にまとめさせていただきました。

それでは、地域コミュニティとは何かというお話の方に移らせていただきたいと思います。

札幌市戦略ビジョンは25年~34年の10年間を計画期間としている計画なのですが、こちらでは地域コミュニティとは地縁、血縁、文化的背景、価値観などに基づく共同体のことを言いまして、そのうちで地縁的な要素の大きいものとして定義させていただいております。

地域コミュニティを形成する団体、これが全てではないのですが、代表的なものを挙げさせていただきます。下の表をご覧ください。

地域においてさまざまな地域コミュニティ組織があるのですが、いわゆるNPOだとかサークルなどはテーマ型コミュニティと称されまして、ある分野やテーマなど特定の目的のために結成される組織というふう考えております。

そして先ほどマンションのお話も出ましたけれども、マンション管理組合は住環境という共通の目的として、防犯だとか除排雪、環境美化などの共益的な役割として組織されているものというふうに認識されております。

一方、町内会なのですが、多様な分野を包括していると共に、面的なエリア性を含めた地域包括性の高い組織と認識をさせていただいております。

それを一覧表の方にまとめました。こちらさまざまな意見あると思いますけれども、一旦こう

いう形でまとめてみました。

上の方に各種団体ですね、NPO、マンション管理組合、商店街という団体を並べさせていただきました。縦軸にさまざまな活動で福祉、健康づくり、親睦・交流、防災、防犯だとか並べさせていただいて、横軸には左が地域包括性が低い方という形にまとめさせていただきました。

例えば NPO を見ますと、テーマ型コミュニティで特定の目的のために結成されたものですので、それぞれの分野ごとに活動をしている形になっております。そしてマンション管理組合ですと、基本的には住環境という共通の目的があった上で防災だとか防犯、除排雪、環境美化というような形の取組を行っています。そして一個飛ばして PTA ですと、例えば防犯、青少年育成、交通安全など行っています。老人クラブとかですと、健康づくり、親睦・交流、防災など行っています。

そして、一番右の方にいて町内会になりますと、こういったいろいろな地域活動にさまざま関する所を包括的に、面的なカバーをしていますよというのが表されている表になっております。

右のページに移っていただきまして、各団体の特徴比較というものを掲げてみました。左の図でさまざまな団体があるのですけれども、その内、町内会、マンション管理組合、PTA、NPO というものを挙げさせていただきました。一個ずつ簡単に説明の方をさせていただきます。

まず地域包括性、面的カバー、エリア性が一番高い町内会なのですが、範囲についてはある一定の地理的区域を有する。そして目的、地域社会の運営、地域での暮らし、安心安全、快適性の確保などを目的としております。そして地域課題への対応。組織形態なのですが、会員制、任意団体で入退会自由になっております。そして構成は、区域で営む住民世帯及び事業所などが構成団体として挙げられております。こちらはみなさまご存じのとおり全世代となっています。活動なのですが、主に生活にかかる活動で、生活環境の向上、安全で安心な暮らしを守るための活動、住民相互の交流を深める、市や他団体の行う事業の協力など。そして財源は主には会員からの一定金額の会費。そして、その他といたしまして、地域の代表性を有するのではないかと考えております。

続いてマンション管理組合なのですが、範囲といたしましては当然マンションです。そして目的。建物の維持管理、居住者の安全・安心など生活に関わることです。組織形態といたしましては、基本的には管理する義務とあって組合制だとか法律に基づき区分所有者が必然的に組合員になるような形になっております。構成は、基本的には住んでいる方なのですが、貸している場合などは、区分所有者が必ずしも居住しているわけではない場合もございます。世代は当然住んでいる方ですので全世代です。活動は、建物の維持管理・修繕計画、防犯防災等の安心安全への取組、清掃・除排雪、住民同士の交流・親睦。あと財源は管理規約に基づく管理費。その他は、管理会社への管理の委託が行われている場合があるということです。特徴といたしましては、建物の維持管理を基本といたしまして、居住者の生活の利便性のために防犯だとか防災、交流、除排雪の共益という取組を行っている所、これがマンション管理組合です。

続きまして PTA です。範囲は当然、学校を中心とした区域です。目的は、PTA ですので、児童生徒の健全な成長を図るもの。保護者と教員の協力、連携を深め互いに学び合うこと。組織形態は、会員制、任意団体となっています。構成は学校に在籍する児童保護者と教職員。世代は、子どもですので、子どもを持つ保護者です。活動は、やはり学校教育を基本としていますので、学校教育の理解・振興、家庭教育の理解・振興、そして校外の生活指導のための活動だとか、地域の教育環境の改善、充実のための活動など。財源といたしましては、会員から一定金額の会費。

特徴といたしましては、児童生徒のテーマが明確であって、同世代が集まる組織であることが PTA の特徴かなというふうに考えております。

最後に NPO ですが、範囲、区域等は特に持たない。関わる人によって範囲は異なってくるのかなというふうに考えてます。目的・使命は特定のテーマだとか分野の問題解決を使命としています。組織形態は、目的型・テーマ型で発生して会員制です。構成は、そのテーマだとか目的に賛同し活動する人が集まるもの。世代は、その目的があって集まる人の自由ですので、多世代。活動については、組織の使命とするテーマや分野に関わる活動等。財源は、会員からの会費や寄付。その他といたしまして、非営利組織になります。特徴といたしましては、ずっと冒頭より述べている通り、特定の目的を使命とした活動の組織なので、こういったことが挙げられるのかなというふうに考えております。

こういったさまざまな団体ありますけれど、札幌市ではそういった地域コミュニティのネットワークというものを推進しております。

そのネットワークを見てみますと、「(4)地域コミュニティのネットワーク」と書いております。こちらは、一番下の方から見てみますと、連合町内会。みなさんご存知の通り、単位町内会の連合体といたしまして、地域のより良い暮らしを支えているもの。そして、そういった連合町内会だとか、企業、学校、NPO といったものが連携しております、まちづくり協議会が組織されております。それが、まちづくりセンター範囲で、多様な地域団体がゆるやかに繋がって、そして地域環境の改善に取り組んでいるもの。さらに大きな組織といたしまして、区民協議会。こちらは札幌市に 10 個ございます。区を単位といたしまして、各区に設置されて、区における課題や特性を踏まえたまちづくりを実践するために活動を行っているもの。

こういったいろいろな団体とのコミュニティのネットワークを札幌市としても推進しております。

それでは、こういった地域コミュニティについて、市民意識がどうなっているのかというものを次のページ「(5)地域コミュニティに対する市民意識」をご覧ください。

「①地域コミュニティの希薄化・重要性」ということで、こちらは平成 27 年度第二回の市民アンケートの速報版という形で、まだ正式には集計がまとまっておりません。

この市民アンケートは、札幌市で行っておりまして、無作為に抽出した 5,000 人に対してアンケートを送っております。具体的には、9 月 3 日に送って、9 月 18 日に締切りまして、5,000 人の内 2,839 人から回答をいただいた結果になっております。

まず左の円グラフですが、地域コミュニティは重要だと思うか。これについては、重要だと思う、どちらかというとも重要だと思うが合わせて 95%と高い重要性の認識がある一方で、右の円グラフの住民相互の繋がりが希薄になっていると思うか。こちらについては、希薄になっていると思う、どちらかというとも希薄になっていると思うが合わせて 90%に上るなど現状に対して強い危機感が現れた結果となっております。

コラムというふうに書いていますけれど、阪神淡路大震災の事例を載せております。

阪神淡路大震災は、みなさまもご存じの通り、交通手段が絶たれてしまって、行政の手が伸びなかったということが報告されております。

最初の丸の下段の方をちょっと読み上げますと、神戸市の要救助者の 85%は一般市民、一般住民が救出したという形になっております。さらに自力脱出困難者に対しては、35,000 人の内 77%を近隣住民が救出している。こういったことから、自主防災組織だとか地域住民など地域コミュニティが果たす役割が大変大きく、特に地域包括性を有する町内会の重要性は高い形がいえるの

ではないかというコラムを掲載させていただきました。

次に右の方に目を移していただきますと、「②地域における身の回りや近所での問題への対応」についてのアンケート結果となっております。

こちら平成 26 年度市民自治に関するアンケートで、お手元にこちらの報告書は置いてありますか。

1 ページ目をめくっていただきますと、調査概要となっております。昨年 5,000 人を対象にいたしまして、アンケート調査を行ったなどの概要が書かれています。こちらから抜粋したものととなります。他のアンケート項目については後ほどご覧いただければと思っております。

資料の方にちょっと戻っていただきますと、身の回りだとか近所で何か起こった時の行動といたしまして、相談する時にはどこが頼りになるかという質問に対して、町内会・自治会が 33.2% という形で最も多い結果が出ております。続いて自分の周りの人のために自分のできそうなことをするというのが 22.8% という結果が出ております。

こういった結果から、町内会は地域のさまざまな問題解決に向けた活動の担い手としての認識が高いことがうかがえます。

次に、「③地域コミュニティの担い手」については、こちら平成 27 年度の第 2 回のアンケートの速報値という形で掲げましたけれども、この調査結果を見ても町内会・自治会が 76.1% という形で担い手としては非常に高い数値が出ております。

まとめといたしまして、「(6)地域コミュニティにおける町内会」は、先ほどより述べております市民意識についてなんですけれども、地域コミュニティの重要性・必要性の認識がされている。そして住民同士の繋がり希薄化への認識がされている。地域コミュニティの担い手としての期待されている。町内会に対する地域での課題解決、問題解決に期待がされている。そして、町内会の特性といたしまして、地域の一定の区域を面的にカバーしている。暮らしに関する多様な分野、包括的に関わっている。多世代で全世代が対象である。行政機関との関わりで地域の代表制を有する。

こういったことから地域コミュニティの中核的な役割を担うのが町内会ではないかという形で整理の方をさせていただいております。

それでは、町内会の現状を見ていきましょう。

こちらは町内会の現状といたしまして、「(1)町内会による活動」として、すでにみなさまご存じの通りさまざま、交流や防犯・防災、そして、ごみ、雪の問題だとか生活にかかる幅広い活動が行われております。

下の方を見ていただくと、実際に工学院大学の星研究室という所が行ったアンケート調査でも子どもの見守りだとか、防犯・防災、そして環境美化、地域の交流機会の場だとかそういったものが町内会の主な取組であるという結果も出ております。

そして町内会の実態について見てみたら、町内会は市内に連合町内会といわれるものが 90、単位町内会といわれるものが 2,212。そして、その加入率が 70.06% という形になっております。

真ん中の表の札幌市の町内会加入率の推移を見ますと、こちら平成元年 83.01% だったものが低下していきまして、今年度は 70.06% という形になっております。

一方で、町内会の加入世帯は増加しております。この加入世帯の増加よりも分母となる総世帯数が増加しているために結果として町内会の加入率が低下している。これが加入率低下の現状でございます。

次に、町内会加入率を年代的に分析してみますと、18~19 歳が 60%、20~29 歳が 61.4% と若

い世代の加入率が低くなっております。そして、年齢が進むにつれて加入率が上がっていくという形になっております。

それでは町内会の加入率をもうちょっと詳しく見ていきたいと思っております。次のページへお願いいたします。

町内会加入率市全体では、70.06%と低下傾向なのですけれども、それを町内会の組織の現状という形で加入率とその他の要因という形で分析をしてみました。

こちらの表は、縦に町内会の加入率、横軸に賃貸共同住宅比率というものを掲げました。この赤線が町内会加入率を表しております、点が地域ですね。見てみますと、賃貸共同住宅が多い地域ほど加入率が低く、賃貸共同住宅が少ない持ち家が多い地域について加入率が高い傾向が見られております。

一番右上の飛び抜けている所があると思うのですが、ここは具体的に言うと厚別区のみじ台になっております。賃貸共同住宅が多くて加入率が高いという、他地域と比べると特殊な状況になっております。左の50~60%の間の点は具体的には清田区の清田地区のものになっております。

この表を見ますと、賃貸共同住宅の加入促進が課題となっていることがわかるかと思っております。

さらに下の表で区の分析をしてみました。

区ごとに見ますと、南区が80.93%と町内会加入率が非常に高くなっております。一方で、白石区は56.58%という形になっております。

それを右の色の図で表したのですが、まちづくりセンター区域別の町内会加入率という形で表しました。

赤い所は加入率が90%を超えている所、具体的な数字を言いますと、左下の赤い所は藤野地区です。こちら賃貸共同住宅率が8.6%と共同住宅率が低くなっておりまして、そして加入率が90.88%と加入率が高くなっています。

そして右の所が清田中央になっております。こちら賃貸共同住宅の比率が11%と非常に低く、加入率が90.7%という形で高くなっています。

こういった地区別にみても、賃貸共同住宅と加入率の相関性がみられるのかなと考えております。

続きまして、右の方の表に移っていただきますと、町内会の未加入の理由を書いております。町内会の未加入の理由を聞いたアンケート結果を出しております。

縦のグラフをちょっと見ていただきますと、加入するきっかけがないから、加入する必要性を感じないから、加入の仕方がわからないから、こういったものが数値多くなっております。やはりこういった加入するきっかけ作りが重要なのかなという所がこの表から見て取れるかと思っております。

そして、その下は、どんなことがあれば加入しますかという形の間いになっております。こちらは、活動内容や会費の使い道がわかればとか、役員や近所の人、大家さんから直接加入を勧められればとか、入りやすい雰囲気があればというような結果が出ております。

それでは、一方で町内会の会長さんは町内会に対して、こういった課題認識を持っているかについて次のページで説明したいと思います。

こちらのアンケート結果は平成22年3月に札幌市内の全単位町内会の会長さんに対してアンケートを行った結果になっております。

左の表を見ていただきますと、「町内会活動の運営における課題」として、「役員のなり手が不



足している」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて 92.9%。「特定の人しか参加していない」これが 87.2%。「役員が高齢化している」が 85.1%。「活動内容が慣例化している」などの結果が数値に表れております。

そして右側は、現状、町内会において、他の町内会だとか住民組織との連携があるかどうかというような問いに対してのアンケート結果になっております。

こちらを見ていただきますと、青色は「他の町内会との連携」で、茶色は「町内会以外の住民組織との連携」を示しており、こういった他の町内会だとかそれ以外の住民組織との連携は多く見られますが、一方で、紫色だとか茶色、紫色は NPO ですね、茶色は民間の企業や事業所。こういった所と連携の度合いが低いのではないかということがこのアンケート調査から見て取れるのではないかと思います。

そして最後のページです。こちら地域課題と町内会活動と題しまして、工学院大学の星研究室の方で行ったアンケート結果になっております。

いくつか項目があるのですが、その中で②と⑦について若干ご説明させていただきます。

こちら左の円グラフは地域課題認識という形で、緑色が「すでに起きている」、青色が「今後起きると思われる」、オレンジ色は「今後起きるとも思わない」という形になっております。

それに対して、右の棒グラフなのですが、「すでに行っている活動」、「今後行う必要があると思う活動」という形になっております。

②を見てみますと、こちら町内会活動における高齢者の負担の増加については「すでに起きている」、「今後起きると思われる」を合わせて 97%と、他の課題に比べて多くなっております。

今後、必要な取組といたしまして、「他の町内会の連携」だとか、「有償ボランティア」などの割合が多くなっておりまして、他の組織との連携の重要性がより増しているのかなということがうかがえます。

そして、一番右下の閉じこもり気味の高齢者の割合に目を向けていただきますと、こちらについても「すでに起きている」、「今後起きると思われる」というものが約 97%という形で、先ほどの一人暮らしの高齢者のお話も出ましたけども、今後の課題として非常に高く認識されているのかなと考えております。

非常に長くなってしまったのですが、こちらが札幌市の人口の現状だとか、それに対するコミュニティのあり方、その中の町内会の位置付け、町内会の課題についてのご説明になっております。大変雑で申し訳なかったのですが、以上で事務局の説明を終わらせていただきます。

### 3 質疑等

#### ○鈴木委員長

ありがとうございました。ただいま非常に詳しい現状ですとかあり方、課題ですとかさまざまな視点での資料やアンケート調査の結果などご説明いただきましたけども、ただいまの資料につきまして、何かご質問等ありますでしょうか。

みなさまのご経験からこういう点でこの会議の方向性も含めまして、何かこの辺をもうちょっとやるべきだとか、そういうご意見でも結構ですので、よろしければお出してください。

#### ○石村実委員

町内会の加入率は先ほどありましたけど、実はもみじ台は 17 の単位の町内会がありまして、そして連合を組んでいます。ところが発足当時からだと思うのですが、連合に入る単位町内会が

非常に少ないのです。逆転しています。連合が少なく単位が逆に多くなっている。ですから、何か大きな行事をするには連合でやりますよね。ところが入っていない単位町内会はそれに全く関わらないのです。というような問題もあるわけですね。

ですから、これを逆転させるにはどうしなければならないのか、常に私はそういうようなことをいろいろ検討するのですが、結局連合に入ってもプラスがない、得るものがないという説明が多いんですね。そしてみじ台というのは、5階建てのいわゆる共同住宅が140棟くらいありまして、その周りを戸建が囲んでいるような非常に特異な感じですよ。

結局、共同住宅で、それぞれ組んでいる町内会は連合に加入しない所が多いです。この辺はそれぞれ抱えている課題が違うのか、戸建の課題といわゆる共同住宅に住んでいる方の課題のギャップがあるんじゃないかということもあるんですね。ですから、なかなか一本にならないのかなという悩みは抱えております。

ですから、こういう地域コミュニティは連合町内会をもっと強化しなければならないと思うんですね。単位町内会を強化するということは連合町内会を強化するということに繋げなければならないと思うんですね。

それが今のところなかなか上手くいかないというような悩みを抱えているのが現状であります。そういう現状でみなさん苦慮しているのが実態だと思います。

#### ○小角市民自治推進室長

資料の6ページの町内会加入率と賃貸共同住宅比率の相関関係から言っても、みじ台というのはかなり特殊な状況になっており、賃貸共同比率が高いにも関わらず、町内会加入率が高い。これは単位町内会の加入率をベースにしているのですが、これは市営住宅比率が高いということ为背景にしています。民間の賃貸共同住宅ですと、管理会社がほとんど共益的な事業でやってしまうんですね。ごみステーションの管理もそう、それから防犯等の管理もそう、除雪もそう。そうなってしまうと、たぶん町内会を組織しようという必要性自体が住民にとって低下してくるということがあります。

ところが市営住宅というのは、昔からそういった共益活動の受け皿として自治会が発展してきた経緯があります。そのため、われわれの中では町内会という扱いとなっているので、町内会そのものはその団地ごとにちゃんと編成されているので、加入率自体はすごく高い。ところが、元々共益活動のための母体なものですから、今度は連合町内会に入って親睦だとか広く地域行事をやるとうきには戸建地帯と集合住宅地帯の意識の差もあって難しいのではないかと思います。

いまは地域にはいろいろな考え方がいらっちゃって、混在化して、しかも未加入単町の方が多いという市内で唯一の地域だと思いますけども、そのような課題についても多分この後、委員会の中での議論にもなると思います。

また、なぜ町内会加入率が低下しているのかというと、実はこの5ページ、6ページに示している年齢階層で若くなればなるほど加入率が低いわけで、あえて6ページでこの相関関係を図化したもので示したのは、先ほど言った加入世帯は、札幌市で毎年3,000世帯ずつくらい増えているにも関わらず、加入率が低下する。なぜかと言ったらそれを上回るペースで総世帯数が12,000世帯くらい増えている。

これはなぜかということ、出入りの関係でいいますとやはり20歳～39歳くらいの出入りが一番大きい、次いで40歳～59歳。要は転勤だったりあるいは学業なのですよね。

ですから地域の定着意識が、まだ学生だと雇用の受け皿自体が札幌にあれば、大学卒業してそのまま札幌に住み続けてくれるのですけど、こういう経済状況なものですから、雇用の情勢も厳

しいので学生も札幌に来たけども就職は本州に出てしまう。まして会社勤めで転勤で来た方というのは、2年とか3年するとまた戻ってしまう。「終の住家」としてではなく短期間となると、どこに住むかという、賃貸共同住宅に入ってしまう。

今は質が上がってきて、オートロックだとかいろいろ勧誘活動自体が非常にしづらいというアプローチの難しさもあって、こういう世帯も増えながらそこで入っていただける方の確保というのは、なかなか進まないというような多分そういう状態だと思います。

ですから下の図面で見ても、郊外部になるほど戸建比率は一般的には高い。なので、割と外側に行くにつれて加入率が高い赤とか茶色とかになって、真ん中の方に行くにしたがって青色だとか黄色になっています。

やはりこの後、地域コミュニティの活性化の中でそういう若い、短期間しかいない学生、若者であったり、子育て世代に対してどうアプローチしていくのかとか。町内会の加入もそうですし、町内会に限らず、地域の活動にどう参加してもらうのかという話ですとか。あるいはこういうなかなかアプローチしづらい共同住宅に対するアプローチをどのようにしていくのかというのは、実はわれわれもしっかりした答えがなくて、今回のこの委員会の中でいろいろアイデアをいただければという重要課題の一つになっています。

#### ○龍滝知佳委員

よろしいでしょうか。まず、私は真っただ中のその世代なのですが、今おっしゃったように住宅が集中していて、セキュリティの問題ですとか、町内会に入りにくいというのは確かにあると思うのですが、そういうふうに希薄になっているからこそ、その子育て世代のお母さん達が自分の家に引きこもっているというのが大きな現状なのです。

ですので、隣の人に声を掛けたらクレームがきたらどうしようとか、子どもの泣き声を静かにさせなきゃとか、そういった中で私も今まで7年間子育て関係の仕事をしてきたのですが、ご主人としか大人としゃべってないというお母さんは非常に多いです。

子どもが2歳になるまで外食をしたことがないとか、「子」育てが孤独の「孤」になっている現状が非常に多いんですよね。

ですので、逆にそこに地域コミュニティとして、町内会の加入はあるなしにしても、地域で子育て世代のママさん達が集まってお話をしたり、例えばちょっと講座を聞けたり、児童館ではやっているのですが、児童館も行くとある程度グループができていて、そこでお友達になりましょうととっても意外となりにくいんですよね。

だから、地域の役割として、そういう「場所」と「人」と「こと」という三つを揃えていくことで、地域で知り合いができる。実は同じマンションだったとか結構集めてみるとあるんですよね。1丁違いの隣のアパートに住んでいる人だったという繋がりがそこでできるので、まずはそういう子育て世代の繋がりを作り、そこから町内会の関心を向けていき、どこに転勤していても「町内会入ったら何か楽しいかも」というイメージを持ってもらうことが、今後10年先、20年先の地域を支えていく上では重要なことだと私は考えています。

#### ○小角市民自治推進室長

おっしゃる通りだと思いますね。実はうちでも、もうすでに町内会加入促進に向けたいろいろなCMを作ってPRしたりだとか、最終的にはそういう普及啓発よりも各町内会さんご自身がどうやって勧誘していくのかというところを支援しないと意味がないので、一昨年あたりからそういうことをやっております。

直接的に自分の町内会活動の見える化ということで、独自に、年間で町内会はこんなことやっ

てました、というパンフレットを作って、それを持って直接勧誘に回るだとか、麻生では町内会活動でこの取組はやっている、この行事は町内会でやってるんです、と認知度を上げるために麻生の共通のロゴマークを作って活動をアピールしています。そういう見える化をやっている他に、いま龍滝さんがおっしゃられた通り、まず最初に「引っ張り込む」という言い方は悪いのですが、地域で一人不安を抱えながら、なかなか繋がれない子育て世代の方に、町内会が行っている子育てサロンなどをきっかけに、地域に同じような子育て世代の人がこんなにいるんだということをまず知ってもらって、そこから町内会や地域との距離を縮めていくだとかが必要ですね。

私自身も子どもが小さかった時はマンションだったんです。同じ階や向いの部屋でも普段使うエレベーターが違ふと誰が住んでいるかもわからない。実は同じような子育て世代がいても分からなくて、行政の子育てサロンに行くとよく見ると5世帯も6世帯も同じマンションにいたと。そういうきっかけ作りは非常に大事です。

#### ○龍滝知佳委員

そうですね。区民センターなんかでも子育てサロンをよくやっているんですけど、「怒らない子育て」とか「イライラしないママ」とかの講座をよくやっていますが、講座って聞いて終わりじゃないですか。だからコミュニケーションが取れないんですね、子育て講座では。

私が実際やっていて一番人気なのは、ママトモ作りランチ会です。とにかくママトモを作ることを目的にただランチを食べましょうという会なんですけど、それの方が人気がありますし、そこで本当にお友達になって……。私の場合は活動のベースとして、小樽が長かったので、小樽に行くとかやるといったら、みんな知り合いなんですよね。そこは私が一本の軸になって、こっち繋いで、こっち繋いでと小さく小さく蜘蛛の巣を広げるようにやってきたんですけども、だから幼稚園に行っても知り合いがいるし、小学校に行っても知り合いがいるし、そういうある程度広域なコミュニティができています。

札幌市で考えると大きすぎるんですけど、例えばうちだったら「くさぶえ町内会」という単位町内会なので、200~300人の話で、町内会はやはりそこが、小さい単位がたくさんあるので、すぼめて小さくしていけば非常にネットワークは厚くなっていくというふうに思うんですよね。

例えば今、各地域の公民館なんかもありますけども、意外と使用料が高いですね。私は役員なので安くは借りられるのですが、地域活動している子育てサークルに格安とか無料とかでサロンをやりたい方はどうぞというふうに。小樽市の生涯学習プラザは子育てと付くと全て使用料無料という試みをはじめました。

ですので、そういった形で、そういう措置をまずは子育て世代、本当はマタニティからはじめていけたらいいなと思うんですけども。

#### ○鈴木克典委員長

やはりきっかけなんですよ。先ほどキーワードで楽しさとか、引っ張り込むという言葉もありましたけど、何かハードルを一步超えると言いますか、楽しければまた繋がっていくというような。

#### ○山内睦夫委員

桑園地区は特別、先ほどいろいろなお話を聞いて、私もお話しましたがけれども、とにかく人口が増えたということがひとつの悩みです。

おっしゃった通り、新しいマンションがニョキニョキとタケノコのように生えております。オートロックで入っていきません。

桑園地区というのはものすごくイベントの多い町なんですね。町内会の繋がりを大事にして。

一つ例を挙げれば、ミニ大通り公園祭りというのをやるのです。あれがものすごく評判ですね、だいたい延べで4,000~5,000人は出てくるのじゃないでしょうか。そこで、4年前に私が提案しまして、お祭りにブースを作ったんですね。桑園地区連合町内会という形でブースを作って、そこにテレビも置きながら、町内会のイベントのビデオを流して、写真・パネル全部手作りで作りまして、今までやってきたことの冊子を配ったり、だいたい朝から晩まで広報委員5~6人いるんですけども詰めて、そういう話を聞いたりということもやっているんですね。どこに行けば入れるんですかという状況で、そこは丁寧に教えてあげる。それでかなりの方が町内会に入っていた。

やはり、こちらからも目立つ所に出て行ってアピールしながら加入促進に繋げていくということが本当に大事だなと、ここ最近痛切に感じます。

それと、マンション自体で町内会に入っていないところについては、最初から、管理人さんや管理組合から、町内会費が徴収されていない。建築会社なり建て主さんなり、そういった所に行政がどこまで強く言えるのかわかりかねますが、やはり行政的に、とにかく建てるんだから、人が住まわれるんだから町内会に加入するべきだということの念書みたいなもの書かせてやっていかないと、ごみステーションを作るだけでも半年くらいかかってようやく管理会社にやってもらっているというふうな状態です、私の所は。

私のところは、やはりマンションを建てるとなると、われわれは真っ先に見に行くんです。見に行って、ここはどこがやっている、じゃあ電話しよう。「町内会の者ですけども入ってもらえませんか」と言うと、「わかりました」と入っていただけるところが結構あります。

だから最初のアプローチが一番肝心なことだと思います。われわれもミニ大通り公園祭りでブースを作って、「入ってください」、「こういった素晴らしい運動会もあり文化祭もあり、子どもに対する子育てサロンもパチパチプラザもやっている」と、紹介してはいるんですよ。そうしたら「それだったら入ってみようか」という方も正直、さっきも言いましたけどいらっしゃいます。しかし、一番は建て主さんとマンションの業者さん。建てる側とわれわれと一緒にコラボして物事を進めて行けば解決できると思います。桑園地区の事例ですけれど、と思っています。

#### ○町田信一委員

ちょっといいですか。今マンションの話が出ました。この6ページなのですが、「町内会未加入の理由」として「加入するきっかけがないから」ということが挙がっております。この辺のことで、私のところは山鼻連町なんです、単町が24集まっている連町なんです。そうしまして、3~4か月前に私がマンションの理事長と単町の会長を一括でやっているものですから、うちの連町で単町の24の会長さんでマンションにお住いの方に声を掛けまして、6名かな、連名で「マンション部会」というのを立ち上げたんです。

いろいろな意見をポンと出したものですから、ちょっといろいろ波紋を呼びました。

そうしまして、その時にその波紋で出てきたお話しが、町内会というのはどうも戸建てで町内会というのは旧態然としているのではないかなと。ただ、やっぱりほとんどの都心部というのはマンションなんだから、やはりマンションというものをそういう部会、そういうものを町内会で立ち上げる。そうしてマンションの存在を意識させる。そういう思いで立ち上げたんですけども、遅いくらいだとおっしゃられる会長さんもおられました。

そして、その会長さんですね、改めて未加入のマンションに声を掛けたら2~3のマンションが入られたと。それはまさにこの6ページの加入するきっかけがないから。あのマンションは入ってないよね、だけど実際にそのようなことで刺激されてちょっと声を掛けただけで、そのマン

ションは入ってくれた。

いま、山内会長さんのお話にもありましたけども、新しくマンションが建つときに、最初にレールを引くのが大事だと。ですから、売り出しをする時に町内会ということ PON と入れてやれば、それはあまり抵抗なく馴染むのではないか。そしてその中に、管理費の中にちゃんと町内会費も含まれると。そんなことが部会のみなさんのお話でございました。

新しくマンションができるということであれば、その地区の単町の会長さんが話をして、町内会に加入してもらおうと、そうすることが大変効果的だとそんな話がありました。

ですから、その時期を逸しますと、町内会に入ったらこういう利点がありますよ、ああいう利点がありますよと、説明するのが大変煩わしくなりますけれど、最初の踏み出しの時に PON とそこに町内会というのをに入れてもらおうと、それがよろしいのかなと。

それから私も町内会の単町の会長として日は浅いのですが、他の会長さんとお話をして感じたのは、連町の会長さんの間で必ずしも情報が共有化されていないのではないか。例えば今のようなお話ありますよね、連町のみなさんがそれをちゃんと共有しているのだろうか。それいい方法だよね、うちもやりましょうと、その辺のところはどうも縦系列での情報共有はあっても、横に広がっていかないかなとそんなことも感じます。

#### ○山内睦夫委員

単町ありますでしょ。単町といえばマンションも3つも4つもありますよね。そのマンションの中で一つの班を作っているのです。マンションはマンションで単独で理事会というのがあるじゃないですか、それをかねた班を作ってもらったと。それでこちらに会費をいただいたら、ちょっと町内会に納めてもらうというような優待も作っているんですけどね。そういうことも大いにありだと思います。みんなと一緒にグループを作りながら楽しくやっていくべきだなと思っております。

#### ○町田信一委員

会長さんのところは新しいマンションが多くございますよね。こちらは中央区でも古いマンションが多いんです。そうしますと、マンションの組合がしっかり機能していないマンションが非常に多い。そういう所ではごみ出しは非常に周りに迷惑をかけている。そうすると周りの会長さんはそのマンションの管理人に文句を言うんです。違うよと、マンションは組合の理事長に言わないとダメなんだよ、管理人に言っても直らないんだよと。要するに同じ連町の中の単町の会長でもそういう意識しかないわけです。ですから、そういうようなことを含めて「マンション」について町内会のみんな情報共有しながらスキルを上げていく、それは必要じゃないかなというふうに思います。

#### ○鈴木克典委員長

ありがとうございます。

#### ○喜多洋子委員

ちょっと質問なんですけど、連合町内会がありますよね。それって札幌市独自のものだと聞いたんですけど、他の地域の中では単町だけで連町という合同の組織がないって聞いたんですけど、それはどうなのかなと。

#### ○小角市民自治推進室長

住民組織、しかも地域コミュニティ活動の主体として活動している連合町内会組織というのはたぶん札幌あるいは北海道特有だと思います。名前だけでいえば本州にも町内会連合会だとか、連合協議会というのは存在しているのですが、実はこれは札幌の連合町内会とは似て非なるもの

で、行政が一定の地区単位に町内会の代表者の方々の意見を聞くための言わば協議会的組織が多いと聞いています。従って、基本は単位町内会・自治会となっています。

そのため、事務局も行政がやっているし、何か地域のコミュニティで行事をやる主体ではない場合も多い。

札幌はそうではなくて、いろいろな発展団体において大きい単位町内会もあれば小さい町内会もある中である程度のエリアの範囲を持って一緒にいろいろな共益活動であったり、あるいは親睦活動をやりたいということでの事業主体としての、機能を併せ持っているということでもかなり違いがありますね。

#### ○喜多洋子委員

本州の方の友達がいるのですが、自治会活動を一生懸命やっていて、単町で決めたことを一生懸命やっていて、ちょっと札幌と違うなと思って、連町を主体として札幌が動いていて、私もいま麻生の連町の町内会長とかと繋がっているのですが、単町は単町で組織があり、連町は連町で組織があることで、ふたつ会議に出なきゃならないというところがちょっと負担になっているというような話を聞いたので。

#### ○山内睦夫委員

私、連合町内会の会長だから言うわけではないですけども、単町を残して連合町内会が先に出ていくということはまずありません。単町の意見を集約して、それをわれわれがまとめて聞いて、中央区では16の町内会長さんが集まって、われわれの方ではこういう問題があるということのを投げかけたりして、それを市なり上の方に助言してもらいます。

それも大事なことです。それともう一つは市の方でいろいろなことをやりますね。そうしたことをいちいち町内会の単町の会長さんのところに全部お知らせすることはできないわけですよ。できないわけじゃないでしょうけど、えらい手間がかかる。

今は広報さっぽろもありますけども、会議の時にこういうことをやります、こうやりますということのを連合町内会の会長さんに知らせて、単町に持ち帰って、またわれわれが単町の会長さんに説明をするわけです。それが主たる動きであります。

ですから、連合町内会が単位町内会を押しつけてやるということは、あくまでも連合はまとめですから、バックにすることが大事なことです。以上です。

#### ○鈴木克典委員長

ありがとうございます。まだまだ話し足りない方もおられると思いますけれども、お時間もありますし、初回ということもありますので、次回以降にまた意見を出していただきたいと思えます。

本日期せずしていろいろなキーワードが出てきたと思います。そういった中で、みなさまの問題としている所とか、ここの委員会で話をでき、方向性ですとか共通認識というものは見えてきたような気がいたします。

この委員会は「地域コミュニティ」がテーマですけども、みなさまの意識として、このアンケート結果にもございましたように町内会という組織がベースとなってくるといいますか、それをベースとして議論をしていくのが重要ではないかなというふうに思っております。当然いろいろな主体もありますし、いろいろな活動もありますので、町内会を中心としつつもいろいろなコミュニティについて議論していくということではないかなと思います。

きっかけですとか、町内会も単町もあれば連町もある、私もちょっと認識不足だったのですけれど札幌独特の仕組みということもありますので、今後事務局の方に、やっている内容はほぼ同

じだと思うのですが、少し札幌市以外の活動の大きなところでの実態ですとか、役割ですとか、その辺をちょっと整理して出していただけたらと思います。

あと、キーワードとしてやはり「きっかけ」という話が大きかったと思うのですが、そういった中で楽しさですとか、見える化ですとか。他には、情報共有ですとか、情報提供ですとか。あと、戸建・集合住宅というようなキーワードが出てきたような気がするのですが、そういったキーワードを意識しつつ、2回目以降からもう少し議論できればなというふうに思っております。

大きなところでご意見ある方いらっしゃいますか。キーワードとか、もうちょっとこの辺をキーワードとして議論いきたいですとか。

○飯田俊郎副委員長

いろいろな議論の結果、新しい取組を行ったり、町内会加入促進条例とかを作っても、町内会加入率などの数字で効果が計られるということになると苦しいのかなと思います。人口がどんどん減ってくるし、その中で高齢者の方に町内会の負担というのはどんどん覆いかぶさっていて、そこの人達の力をもっと振り絞って若い人を入れてくれというのはなかなか実は難しいという面があります。

単に加入率が上がった・下がった、それも大事なんだけど、その質ですよ。どういうふうになったのかということも含めて議論するべきだと思います。

この6ページの資料で、この黄色い画面に赤い線があって黒い点がいっぱいいつているのがあるのですが、この赤い線の左下の地域が右上に上がっていけばみんな加入率が上がるということでもいいのですが、赤い線の左上の方は郊外の地域が多くて、右下の方が都心の地域が多いわけですが、状況が違うと思うのです。

この赤い線を越えて右上に上がっていくにしても、校外と都心では状況が違うし、やるべき事も違うということで、右上の優等生の所になるために左下の所は何をしたらいいかという参考にする時に同じような条件の所がやっていることをやっていくと。

それは単に数字を上げるだけではなくて、やり方も違うし、質も違うしということで、札幌の地域の特性にわけて考える。

左下の図で清田区の所に面白い所がありまして、真っ赤の所と真っ青な所が並んでいる所があるんです。これうちの大学が分かれ目にあるんですけど、青い所が低いのは大学生が多かったり、施設が多いんです。病院とかそういう所の住民が多いことから青色になっているんですけど、この青い所も地域によって随分まだらなんです。

赤い所は全部完璧かというのと、うちの大学で町内会応援隊というのを組織してこの赤い所に入ったんですね。赤なんだから入る必要ないんじゃないかという、青に行けよと言われてそうな所に入ってみたら、その赤い所が結局高齢者ばかりが頑張らせて、若い世代を育ててきていないのがよくわかって、大学生が入るとよかったよかった大学生に任せて俺達楽できると引きそうになる。なんとか高齢者の方を引き留めて、支えながら私達が入ることで若い人に慣れてもらって、若い世代を取り込んで欲しいと、さっき龍滝さんがおっしゃっていたような子育て世代とかおやじの会とかそんな人達に声を掛ければ青から赤になっていくのかなということを考えたりしているんですね。

そういう加入促進のいろいろな、100個あったら困るんですけど、少し整理した中で処方箋が出ていけばいいかなという気がしました。

○小角市民自治推進室長



ちょっと誤解のないようにしますと、もちろん先ほどご挨拶の中でもお話をさせていただいた通り、加入促進条例を作るかどうかということも一つの大きな論点ですので、そういうこと、あるいはこういう取組の数値的な指標としてわかりやすいのが加入率ということで、もちろん加入率がどうやったら上がるかということの一つのポイントではあると思っておりますけども、行政、私共の立場も一番大事なのは加入率を上げるのではなくて、やはり地域のコミュニティにいろいろな方が参加をして、最終的には地域が抱える課題に対していろいろな方がそれぞれ役割を果たして解決していけるそういう地域ができればいい、これが最終目標です。

そういうことから言いますと、この委員会の中でのご議論も単に加入率を上げることだけではなくて、例えば今の若い人達はどっぷり組織に加入して、要するにディープな参加は嫌で、自分のできることをできる時にお手伝いをする。例えば地域のお祭りの時だけ一生懸命やりますとか、手の空いた時に除雪だけだったら力仕事だったらやりますよとか。そういうような参加指向の方もどんどん増えてきています。

そういった今日的な社会環境だったり、人の思考の違いだとかも踏まえた上で、より多くの方がその地域を支えるような、そういうコミュニティを作るためにはどうしていけばいいのか。

ですから先ほどの課題の中にもありました。もちろん地域コミュニティの中核というのは面的にカバーしている町内会だと思っておりますけども、中には課題によってはかなり専門的な知識・スキルを要する、そうすると実はむしろ NPO だとかの方がテーマ型コミュニティなので、そういう部分では長けている。それがどっぷり入るわけではない、そういう部分について町内会と協力をするだとかという、そういう関わりのあり方もあると思っております。

そういうことでこの資料の 2 枚目の所に書いているのが、一つは地域コミュニティの活性化ということと、多様な主体が結びついたネットワークを構築してみんなで地域を支えていくんだということに対してどういう取組が必要なのかな、ということも踏まえてご議論いただければと思います。

○鈴木克典委員長

あくまでも加入率は指標であって、数字ありきの議論ではないということですね。

○龍滝知佳委員

その町内会加入条例というのは実際に見ることできるんですか。

○小角市民自治推進室長

いずれお示しをします。先ほどお話もあったように、結局マンションは建てる時のタイミングが大切で、そこを逃すと、加入してもらうのは非常に大変になります。山内会長の所のように、建物が出来て入居した後も町内会あるいは地域のいろいろな主体が連携して、おさんぽ祭りなどの取組を通じて、まずは地域に参加しましょうということで上手くその後引っ張り込んでいる事例もあるんです。通常の場合だと、最初建てる時を逃がしてしまうと非常に難しい。

われわれ札幌市も不動産関連の業界、マンション管理組合連合会もそうですけども、協定を結ばせていただいて「新しく宅地開発する」「マンションを作る」だとかという時のアプローチをなるべく細やかにできるようにということはさせていただいております。

ただ、さらにもっと進むと、この後のいずれかの会議で提示をさせていただきますが、京都市が新たにマンションを建てる場合に条例で地域コミュニティと調整をする担当者をちゃんと定めて行政に届け出なさいと。加入そのものは義務化しないんですけど、地元の町内会さんがそういう話をしたい時に誰に話を持っていけばいいのかという窓口担当者だけはっきりしなさいということ義務化しているという例も実はあります。

それがどこまで機能しているのかどうかという所もあるんですけど、そんなこともあるので、他都市の事例なども提示させていただきながら、いずれご意見を頂ければと思います。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

補足しますと、いま室長から条例という所に着目したのですが、当然、加入促進条例でもないですし、そしてまた条例が本当に必要かどうかという所もございますので、本当に地域を活性化するために必要なことをご議論いただければというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

○鈴木克典委員長

私からも一つお願いがあるのですが、先ほど拝見させていただきました「町内会・自治会に関するアンケート調査結果」がございました。これは平成 22 年度の発行になっておりますが、最近では情勢も変わってきていますし、また今日みなさんから出たいろいろなキーワードがあると思うのですが、少し新たな動きがきている所もあります。こういった調査は何年に一回とか調査時期などいろいろあると思うのですが、もし可能であればできる範囲でこういった調査をしていただけると、これから条例化ですとかその辺の議論も入ってきますので、ここでの委員会の意見も重要なのですが、やはり多くの方の声を取り入れることが重要だと思いますので、可能な範囲で少しこういったお声を聞くという意味でやっていただければと思います。

○小角市民自治推進室長

アンケート調査については、実は普通であればこういう検討委員会でご議論いただくためには先にやって基礎データを整えておくのがセオリーで、事前にアンケートをとろうかという話もあったんです。しかし、実は昨年市民自治に対するアンケートをやったり、今年に入って工学院大学の星教授の研究室と連携して郊外部の単町を対象にアンケート調査をさせていただいたということもあって、同じような時期、特に今年国勢調査面で町内会が非常に忙しいということもあり、一旦この立ち上げの時点では今ある資料を基に提示させていただいて、この中でこういうことについて、もうちょっと深く調べるべきだという論点がはっきりした時点でそこを調べるような形でやるのが効果的かなと思っています。

○鈴木克典委員長

時期は構わないのですが、あとワークショップもありますので効果的な時期にという意味なんですけど、やってくださいというよりはご検討をということで、よろしくお願いいたします。

その他何か全体を通してございますか。よろしいでしょうか。

あと時期的に次回が 12 月に予定されておりますけれども、地域コミュニティや求められる町内会のあり方ということで、今日のような活発なご議論をいただいて、少し方向性を見出していきたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、特に無いようでしたら事務局にマイクをお返ししたいと思います。

○事務局（福澤市民自治推進課長）

次回につきましては、12 月上旬から 12 月中旬の間で開催したいと考えております。別途、担当の者より本会議終了後にメールやファックスにて日程調整のご連絡を差し上げたいと思います。みなさまご多忙の所、誠に申し訳ございませんが、よろしくお願いいたします。

また、第 2 回の会議に際しまして、事務局の方で調べてほしいものなどがありましたら、随時ご連絡をいただきたいと思います。

以上でございます。本日はどうもありがとうございました。

#### 4 閉会

○事務局（福澤市民自治推進課長） これをもちまして、さっぽろ地域コミュニティ検討委員会  
第一回会議を閉会いたします。

本日は、ありがとうございました。

以 上